
=== 日程第3 一般質問 ===

議長（村松 積） 日程第3、一般質問に入ります。

今回は6番、宮嶋清伸君、1番、小池昌人君、4番、宮嶋怡正君、2番、串原寛治君、3番、金田憲治君、以上5名から通告されております。

宮 嶋 清 伸

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、質問を許します。登壇願います。

6番（宮嶋 清伸） 6番、宮嶋清伸です。

まずは村長、6月3日のベストファーザーイエローリボン賞受賞おめでとうございます。そして週末の朝の番組で30分にわたり、下條村の取り組みを全国に放送していただき、「福田首相も視察した方がいい」と、放送の最後では言っていましたので、今後ますます視察や取材の依頼が殺到し、串原総務課長の対応は多忙になると思いますので、体には十分注意していただきたいと思います。

今年になって、日経子育て支援大賞、春の園遊会、そして今回のイエローリボン賞は、ひとえに4期16年の伊藤村政の評価であり、それを支えた職員、汗を流した村民がともに受賞したものであると私は確信しております。

来る5期目の選挙には、これに油断することなく、全力で取り組んでいただき、引き続き下條のかじを取っていただきたいと思います。

さて、質問に入る前に、今回のテレビを見た人から「これだけ有名になっているのに、下條のホームページはなんとかならないのか」と言われました。見てみましたが、画像ライブラリーは19年第4回議会のままですし、その他にも更新がされていないものが多く見られました。しかし、現状の職員の数では限界があります。

全国でテレビを見、住んでみたくなった人や進出しようとする企業の方は、必ずホームページで検索します。そのためにも私はアウトソーシングをして、専門家に管理してもらい、下條に来たくなる、住みたくなる、会社を出したくなる、そして常に更新される、そんなホームページがこれから注目される下條村には必要だと思っておりますので、提案をさせていただきます。

さて、質問に入りますが、今回私は、子供の安全施策について、村長のお考えをお聞き

するものです。

まず、学校安心メール導入についてですが、先ほども述べましたが、現在はIT社会で、情報はパソコンや携帯電話を利用しております。特に連絡を取るには電話をかけるのではなく、携帯のメールを使用する頻度が多くなっております。

現在、飯田市では、独自に小中学校の子供の安全策として、学校安全メールを導入しており、実際に「松尾の子供がいなくなった」とテレビでも取り上げられましたが、学校安全メールで保護者に呼びかけ、無事保護されたという事例もありました。

そこで子育て支援に取り組み、来年度の入園児が60名を超える下條村として、保育所、学校安心メールの導入は不可欠であります。独自では経費の関係がありますから、火災情報のような広域連合としての導入について、下伊那町村会長として村長のお考えをお聞かせ願います。

続きまして110番非常通報システムの導入についてお聞きします。

これも既に飯田市では導入しておりますが、保育所に不審者が侵入した場合、ボタンを押すと県警本部通信司令室に通報され、最寄りの警察署員が駆けつけるシステムですが、これについて村長の、導入について村長のお考えをお聞きします。

以上で質問を終わります。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

村長（伊藤 喜平） 宮嶋議員の質問にお答えいたします。

子供の安全施策についてというご質問でございますけれども、まさに今の世相、昨日もございました。秋葉原であんな大きな事故があるわけでございますし、今、弱者、それから無差別の人の殺傷というのが、日常茶飯事に行われておるわけでございまして、本当にこれが人間の住む社会かというように疑われておるわけでございます。

こうしたときに、特に生活弱者である子供の安全ということについては、我々の責任で徹底してやらなければならないということでございまして、今示唆に富んだご質問に感謝しておるところでございます。

学校の安心メールというのは、お話のありましたように、不審者の情報等を緊急に保護者に連絡を取らなくてはならない情報を電話でなく、メール登録をしている人に、一斉にメールを送信し連絡を取れるということが基本でございます。

現在ご指摘のように、飯田下伊那の学校安心メールの状況は、飯田市では年間88万2千円かけ、火災・人捜し・不審者等の情報を含めたメールを配信しているところでございます。

また松川町でも、松川中央小学校で試験的に学校安心メールの配信を行っているところでございますが、昨年と今年の4月に試験配信をただけで、まだ実例はありません。費用については、携帯ホームページ内の広告収入で行っているため無料で実施してあるところでございます。

他の町村では、高森町では、2年ほど前に検討をしたが、県警の所轄管内ごとに配信している不審者情報の「ライポくんメール」があり、導入に至らなかった経緯があるわけでございますし、豊丘村、阿南町、泰阜村、阿智村では導入していません。

松川町で行っている安心メールは、費用もかからず、この業者と行政は当然でございますけれども、学校、保護者でよく相談して対応していただくようにする予定でございます。

広域でもというお話がありましたけれども、まさにこれは今の広域はこれから三遠南信の開通等を控えて、観光のネットワークをはじめ、医療、福祉に徹底して広域でやらなければならない問題があるわけでございますので、この中にもぜひその項目として加えて、よりみんなが安心して暮らせるような社会構築にまたひとつ広域の立場としてもやっていくつもりでございます。

2番目といたしまして、110番非常通報システムの導入についてということでございまして、ターゲットを保育所に定めていただいたわけでございます。

今、下條保育所ではどんな防犯対策をしているかということでございますけれども、不審者が侵入した場合、各教室に非常ボタンを押すと、外部にサイレンで知らせるようなシステムが完備しております。

また2番目としまして、不審者が一時的に取り押さえられるようなネットランチャーを3台、これは警察ご推薦のものでございますけれども、それを3台取り付けてございます。

郡下の110番非常通報システムの導入状況は、飯田市では私立また市立の保育園で幼稚園43カ所に19年度設置していますが、南部、西部ではまだ設置しているところはありません。

このような、都市部では導入しているようですが、農村部ではまだ普及していません。

村としても、当面外部へのサイレンの音をより大きくすることにより、周囲の住民の方々にもう一度周知徹底していただいて、住民の方から110番通報してもらうことを考えております。

なお、情報化社会の中で一番大事なことは、情報をいかに正確に広く伝えるかということでございますけれども、ホームページの内容がまるでなっていないじゃないかということでございます、私も過去にも職員諸君にも「おい、もう少しうまくやってくれ」なんて頼んだことがあるわけでございますけれども、今議員ご指摘のように、少ない人員でやっておるところでございます、今では限界点であろうかと思えますし、またこうした人に見てもらって理解するということになる、それなりの能力、それからそれなりのノウハウのある専門家でなければできないということがあろうかと思えます。

いくらこちらで発信しても受け取る側が「なるほどな」というのはやはりプロでなければできないということでございます、アウトソーシングというお話がございました。私もこれ早急に検討委員会を設置して、しかも早急にアウトソーシングして、下條村にふさわしい、またすっきりとした窓口になるホームページを、これからも継続的に作っていくようにしておかなければならないということでございますので、あくまで早急にやるということをお誓い申し上げ、答弁とさせていただきます。

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、再質問ありましたら。6番、宮嶋清伸君。

6番（宮嶋 清伸） 明確な答弁ありがとうございました。

その中で1つ110番通報の件で、補正の方にも、もう盛り込んでいただいてあります。即対応していただいたなと思っておるんですけれど。

もう1つ提案なんですけれども、今下條村、各庁舎は光ケーブルで引かれておるという中で、今ボタンを押すとサイレンが鳴るというのもこれ大事だと思いますし、下條村らしくて、住民がその保育園を守るという形ですごくいいことだとは思っておるんですけれど、できればそのシステムが構築されているんで、そのボタンを押したときに、各庁舎にもその光ケーブルを使って伝達ができるというような、何かシステムが構築できるのじゃないかと思えますので、その点についても村長どのようにお考えでしょうか。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 必要なことだと思います。

よくそれも前向きに相談して、できれば即取り組んでまいりたいと思っております。

よろしく申し上げます。

議長（村松 積） いいですか。